

平成26年度第1回小金井市地下水保全会議会議録

1. 開催日 平成26年7月23日(水)
2. 時間 午後2時～午後3時
3. 場所 前原暫定集会施設 前原暫定会議室
4. 議題
 - (1) 前回会議録の確認について
 - (2) 水質監視測定及び湧水調査報告書(平成25年度)について
 - (3) ボーリングデータについて
 - (4) その他
5. 出席者
 - (1) 委員
 - 会長 小倉 紀雄
 - 副会長 山田 啓一
 - 委員 土屋 十圀
 - (2) 事務局員
 - 環境政策課長 大関 勝広
 - 下水道課長 林 文男
 - 環境係長 碓井 紳介
 - 環境係主任 中澤 秀和
 - 環境係 板本 絹代
 - (株)サンワコン 檜原 卓志
6. 傍聴者 2名

平成26年度第1回小金井市地下水保全会議会議録

- 小倉会長 山田先生は3時までということで、できれば3時ぐらいに議事を終了したいと思いますので、よろしく願いいたします。
- 中澤主任 会長、よろしいでしょうか。
- 小倉会長 はい。
- 中澤主任 平成26年4月1日付で、事務局のほうに人事異動がありまして、環境政策課長の石原のほうが生涯学習課のほうに異動になりまして、新しく大関環境政策課長が着任しました。よろしく願いいたします。
- 大関課長 皆様こんにちは。いつも大変お世話になっております。このたび4月より、環境政策課長をさせていただくことになりました大関といいます。どうぞよろしく願いいたします。なお、環境政策課への異動は初めてでございまして、まだまだ把握し切れていない状況でございまして、したいがままに、今しばらくの間、前任者のようにはいかないかと思っておりますけれども、これから徐々に勉強させていただきたいと考えておりますので、ご協力賜りますよう、よろしく願いいたします。
- 中澤主任 あとは本日、オブザーバーといたしまして、小金井市下水道課長の林課長のほうに出席いただいております。近々、先生方のご意見で雨水浸透の関係が多く出ておりますので、そのあたり、何かご議論出ましたら、よろしく願いいたします。
- 小倉会長 はい。
- 林課長 よろしく願いします。
- 小倉会長 それでは、あと東京都の委員は、前は丹野さん。
- 中澤主任 そうですね。4月1日付で丹野委員が異動されて、後任で根本弘環境改善課長が着任されました。本日、委嘱という形をさせていただこうと思ったのですが、日程調整のほうができずに、今日は欠席です。
- 小倉会長 今日はご欠席ですね。
- では、早速議事に入らせていただきます。1番は前回の会議録の確認で、これは既に、前回、25年度第3回の会議は3月28日に開催されまして、議事録を前もって郵送していただいております。これについていかがでしょうか。詳しい議事録ですが。じゃあ、何かありましたら、事務局のほうに知らせていただくということで、確認をさせていただきたいと思っております。
- 中澤主任 事務局のほうからよろしいでしょうか。こちらの地下水保全会議録、その中の14ページから15ページにかけて、先生方のほうから、浸透関係、浸透性の舗装をかけているデータがないのかということで、ご意見をいただき

まして、こちらの市の内部のほうで調べさせていただいたところ、市の道路の管理課のほうで、透水性のアスファルトを使用して工事を組んでいるというところで、何か道路管理課のほうでデータのような形で報告を上げていないのか、と問い合せさせていただいたのですが、集計というような形で報告書とか、そういったものは出していないということでした。

こちらのほうで、依頼という形で、何とか近々5年ぐらいの数字をとれないかという形で調査させていただいたところ、細かい数字とか、そういったことで使わないということであれば、面積とか簡単なものを出せるということでしたので、私のほうから口頭で申し上げさせていただきます。

平成21年度から25年度の透水性アスファルトの使用状況でございます。21年度につきましては、大体、およそ、市内の道路工事の関係で500平米程度。22年で100平米程度。同じく23年、100平米程度。24年度で500平米程度。25年度で大体、1,200平米程度ということで、合計でおよそ2,400平米弱ということで、透水性アスファルトを使用した道路工事及び、駐輪場ですね。そういった関係の工事を行っている、ということでした。以上でございます。

山田副会長 こちらは舗道ですか。

中澤主任 舗道も含む形ですね。舗道設置工事、駐車場及び駐輪場の関係でございますね。

山田副会長 そうですか。

小倉会長 道路、舗道、駐車場。駐車場を含めて、5年間で2,400平米程度ということが、透水性の舗装になっているということで、これが多いのか、少ないのか、私は直感的には分からないのですけれども。

山田副会長 下水道課長さんがいらしていると言いましたが、前に林課長にお聞きしたかと思いますが、下水道のほうでも、道路のトレンチを結構つくっていると。その効果を期待している、というお話を聞いたことがあるのですが、どうなのでしょう。

林課長 道路でのという事ですか。

山田副会長 道路だったと思います。道路排水の一部をトレンチで浸透がわりにしている、ということ。

林課長 東小金井の区画整理では、一部そういった工事は行っておりますけれども、通常の道路のほうにつきましては、下水道課の工事はございませんので、道路の担当のほうで、どういう形を取られているかは分かるのですけれども、開発を伴うようなときは下水道課の工事として行っています。

山田副会長 それは、基数とか面積とかいうのは、データはないのでしょうか。

林課長 多分工事の全長とかというのは、もちろん分かりますけど、ちょっと今日は持ち合わせておりません。

山田副会長 はい。

小倉会長 よろしいでしょうか。前回の議論の補足で、透水性の舗装相当分の面積について、調べていただいたということで。この件はよろしいでしょうか。ありがとうございます。

では、本日の議題の2番目。平成25年度水質監視及び湧水調査報告書について。これも事前にお送りいただいております。事務局のほうでご説明をお願いいたします。

中澤主任 水質監視測定及び湧水調査報告書（平成25年度）版、こちらを説明させていただきます。開きまして1ページ目でございます。例年こちらの調査、井戸水調査、野川調査、湧水調査ということで、以上3項目に及びまして、調査を行ってございます。井戸水調査につきましては、市内14地点を年4回、野川調査につきましては、市内柳橋下の1地点を年2回、湧水調査につきましては、湧水3地点に年2回の調査をかけてございます。

3ページ目をごらんください。井戸水の調査、こちらに引き続き、野川調査、湧水調査、及び、それぞれの日付が掲載されてございます。調査項目につきましては、3ページ目の1の項目より、例年どおり同様の項目の調査を行っているところでございます。

6ページ目をお開きください。井戸水の調査の結果ということで、従来、字が小さくなってしまって、若干見づらくなってしまった部分はあるのですが、経年の変化を見てとれるような形ということで、近似3年分のデータを蓄積させていただいて、どんどんこの結果を積み上げていくような形、あるいは棒線グラフのような形に取り込む、そういった形の方向性をやっておるところでございます。今年度の報告書につきましては、取り急ぎ3年分のデータを写させていただいている状況でございます。

市内の各地点の場所につきましては、戻りまして2ページ目でございます。関連ということで、丸が井戸水調査地点、四角が湧水の調査地点、黒三角が野川の調査地点という形になってございます。こちらも昨年度と同様の地点でございます。

12ページ目に移っていただいでよろしいでしょうか。こちらのほうに棒線グラフということで、平成25年度の年4回の平均値ということで、各地点の報告のほうを載せさせていただいてございます。こちらのうち、一番上の塩素系有機溶剤に関しましては、ピンクのほうがテトラクロロエチレン、赤についてはトリクロロエチレンの基準値のほうを載せております。硝酸性窒素につきましてはの基準値も、こちらのほう、10ポイントで赤線を引いて

ございます。鉛につきましても、0.01のところでは基準値を引いてございます。こちらの内容につきましては、また基準値の方もお出ししたいと思います。

及び、右側の13ページ、こちらのほうは平成23年度、24年度、25年度の経年変化を見てとれるような形で、棒線グラフを作成してございます。

14ページになります。各地点の、各項目の傾向をご説明させていただきます。トリクロロエチレンにつきましては、すべての地点で環境基準を満足しており、特段の問題はございませんでした。テトラクロロエチレンにつきましては、ナンバー5、6、7、この3地点に及び、環境基準を超過していたということでございます。3番につきましても、トリクロロエタンにつきましても、環境基準を満足してございます。4番、硝酸性窒素につきましては、ナンバー9で環境基準を超過していたという形になってございます。5番、鉛に関しましては、ナンバー10で環境基準を超過していたという形でございます。

全体の傾向といたしまして、昨年、一昨年と比較して、同じような形で、やはりテトラクロロエチレンの環境基準の超過などは、昨年の第1回のこの会議で出ささせていただいたとおり、なかなかすぐに消えるような代物ではございませんので、こちらの部分はまだ、一定調査を継続して、経過を見守るという形を取らざるを得ないのかと考えてございます。

15ページ目、2-2、野川調査の説明をさせていただきます。野川の水質調査につきましては、昨年6月及び11月に調査のほうを実施しております。こちらですが、6月につきましては、昨年、かなり野川に渇水の状況が見受けられまして、流量がなかったというところもございますので、こちらの流量につきまして、お含みおきいただければと思います。

2-3の湧水調査に関しまして、ご説明させていただきます。17ページでございます。湧水調査につきまして、昨年6月及び12月、調査を実施いたしました。特に外観上で濁り等は見られず、透視等もかなり良好なものでございました。臭気も特になく、流量につきましても、流量が増加しているポイントなども12月においてはあったというところがございます。pHにつきましては、全体的にやや酸性ということでございました。ほかの項目につきましても、全地点で環境基準を満足しており、特段の問題はないというところございました。

以上でございます。

小倉会長 ありがとうございます。井戸水調査、野川調査、それから湧水調査の結果について、概要をご説明いただきました。

山田副会長 ちょっといいですか。

小倉会長 どうぞ。

山田副会長 前回も議論になった5、6、7のあたりのテトラクロロエチレンですか。ちょっとお聞きしたいのは、この辺の井戸は、水をどういうふうに使っているのか、というのは分かりますか。どれくらいくみ上げているとか。

中澤主任 全ての井戸に関しまして、こちらの3地点の井戸は、民間の方も利用されているものでございまして、7番は違いますけれども、5番、6番につきましては、民間の個人の井戸、7番につきましては、桜町病院の井戸ということになります。5番、6番につきましては、庭の散水という形で届出が出ておりますが、ふだん、実際のところは使用していないというところではございました。7番の桜町病院の井戸につきましても、緊急災害用というところではございまして、ふだん、特段の使用をしているところはなく、ほかの用途として使っているとしたら、トイレ用水とか、そういったことではございました。以上でございます。

山田副会長 これはどうしたらよろしいのか。見守っていくのはそうなんだろうけど、例えば積極的に、用水をくみ上げて、曝気というか、何か循環をやるとか、そういうようなことは、やる必要はないのでしょうか。

小倉会長 どうでしょうかね。5番と6番は個人の井戸で、桜町病院の井戸ということで、積極的に、多分どんどんくみ上げて、曝気してやれば、くみ上げれば、濃度が減るということは考えられますけれども。

山田副会長 何かこういう、汚染の程度にもよるんでしょうけれど、そういう介入した方法とか、事例とか、もしあれば。ただ見守っていただけでいいのかなという気もするんですけど。

小倉会長 そうですね。

山田副会長 これは人体にはどういう影響がありますでしょうか。

小倉会長 テトラクロロエチレンは何というか、いろいろ有機塩素なので発がん性だとか、催奇性だとか、何かそういう、あと神経系の、かなり長期間にわたり飲み続けると、そういう症状ですよ。

山田副会長 庭に水をまく程度だったら別に。

小倉会長 それは特に問題ないだろうと思います。揮散しちゃいますけどね、大気中に。

山田副会長 揮散するのか。

小倉会長 揮散はしますけど、まあ、濃度がそれほど高くないようなので。

山田副会長 あまり心配はしなくてもと。

小倉会長 そう思います。人体に影響するほど。僕の知っている事例で、前に府中市に有名な水道用水源で、かなり高濃度のトリクロロエチレン汚染があっ

て、そこの周辺の井戸で、すごい高い値で、それで市のほうで、やっぱり曝気して、そういう処置をしました。東京都か、あれは水道用水源だから。

山田副会長 それは水道用の水源を曝気をしたと。

小倉会長 そうです。当初は、曝気した水は捨てていたんですけど、また府中市では、その後、地下に戻しているようです。水を。その後はかなり改善されたという話は聞いていますが、具体的なデータはちょっと分かりませんが、かなり前です。我々が農工大にいたころの話なので。個人用の井戸で、この程度だとなかなか難しいでしょうね。曝気して改善するというのは。

山田副会長 それとも一つ、河川のほうで、今お話になった6月の、今年の瀬切れと言っているのか、これより下に下がるのか、このようになってるの。

中澤主任 今年の6月ですね。こちらのほうで渇水ということで、こちらの調査以外にも、今、雨水のデータは持ち合わせていないのですが、降雨量のデータ等でも恐らくいっているかと思うんですけど、かなり梅雨、さほど雨がなかった時期だったかと思うんですね。そういった中で、市のほうも河川の関係で、渇水に関して、ポイントを見て、何とかならないのかといった形のご意見をいただいたところもございました。

山田副会長 2005年とか6年とか、随分、水がないときがありましたけど、それ以来ということでもよろしいですか。

中澤主任 そうですね、私が着任してからのところでは、その渇水はかなり大きいものだった、というのは事実でございます。

土屋委員 ちょっと観測のことでよろしいですか。

小倉会長 どうぞ。

土屋委員 野川のほうの流量観測の地点が、図示されていますが、これは野川公園の、もう、ずっとこの場所でやられたんですね。

中澤主任 そうでございます。

土屋委員 実は先週、14日に、野川の自然再生事業の委員会がありまして、それで事業会に話が出まして、今年、もし調査を11月ぐらいにやられるとなると、北多摩南部建設事務所が11月ごろ、多分、秋に、西武線から上の辺で、いわゆる河床の工事をやるようです。ですから、恐らく何かの影響が下流に行くんじゃないかと思えます。どういう影響があるか、ちょっとまだ分かりませんが、そういう1つ情報がありますので、もし流量を観測されるときに、業者委託でしたか、それとも。

中澤主任 業者委託になります。

土屋委員 調整をされて、何らかの工事が影響しますから、その辺を北多摩南部建設事務所とちょっと調整をしていただいたほうが、いいんじゃないかと思いま

した。実際、観測される日は1日だけで、1日の多分、24時間ですか、それとも半日ぐらいですか。

中澤主任 実際は、こちらの調査は、午前9時半に行ってください。定時でございます。

土屋委員 午前9時半の定時、1回だけですか。

中澤主任 はい。

土屋委員 それでも影響があるかもしれませんので。

中澤主任 事務局からよろしいでしょうか。実は今年も同様の調査を、野川調査を行ってございまして、6月の調査につきましては、既に調査のほうは実施してございます。土屋委員のご指摘と少し関係ございまして、実はこの調査を実施した日に、その調査地点の上流域で、河川工事をどうも行っていたみたいでございまして、そちらのほうの調整が取ればよかったですのですが、私ども、そのあたりの情報は全くない状態で、調査を実施したところ、9時半段階では特段、水のほうも透視性が非常によかったですものが、少々時間が経過して、調査が終わるころに、少し水が濁ってきたような状況になってございまして、よくよく調べてみたら、河川工事を行っていたというところがございました。

やはり土屋委員のご指摘のとおり、11月にはこのような形で、恐らく数値に若干の影響が出てしまう可能性がありますので、11月は、このようなことがないように、日程の調整をとって調査のほうを実施させていただこうと考えてございます。

小倉会長 6月は幸い9時半なので、濁りもなかったというので、そんな影響はなかったと考えていいんですかね。

見かけ上の濁りはあまりなかったということで。粘土を張って、効果はあるんですか、浸透。前もやっていましたよね。

土屋委員 上流ですね。小金井新橋の上流でやりましたね。

小倉会長 そうそう、やりましたよね。

土屋委員 まあ、効果は、何というんでしょうか。

山田副会長 効果があるかどうか調べてみると。

土屋委員 長い目で見たら。

小倉会長 長い目で見たら、何か流量そのものを、流水量を増やして、水量を増やすという努力が。小金井で一生懸命、浸透枘を設置していますから。

土屋委員 漏れるんじゃないかと、逆に出てこなくなることもあり得ると、面白いと思うんですけど。

小倉会長 そうですね。

山田副会長 そうね、下流部、柳橋辺り、出たり入ったりしていますから。

小倉会長 そうですね。

山田副会長 上のほうは多分、効果があると思います。小金井新橋のほうは。下流部はクエスチョンですね。

小倉会長 何か都のほうで、流量の検証みたいな調査をやってくれるといいですよ。

土屋委員 そうですね。

小倉会長 やった後は前後で。都のほうで。

山田副会長 大分前にやりました。非常に細かいやつを。そのデータレベルじゃ、かなり細かいのがありましたね。

小倉会長 連続の磁気の水位計の設置されているところ。

土屋委員 ああ、あります。

小倉会長 あれはかなり下流ですか。

土屋委員 小金井新橋の真ん中で1つあって、調布で1つ。

小倉会長 じゃあ、その解析を少しするというので、その効果の実証、検証ができればいいですね。ありがとうございました。さっきの有機塩素は個人の井戸なので、市としても、指導とかあれは無理ですかね。

中澤主任 そうですね、報告書のほうは、当然こちらのほうは、その井戸について差し上げてございます。

小倉会長 そうですか。認識はしているということですね、個人のお宅では。これは毎年、去年、ずっと出ていたんですよ。5、6、7というのは。

中澤主任 そうですね、昨年度の第1回目のときですか、小平市側からの水だということ、そういったお話し差し上げていたところですよ。

小倉会長 そうですね。じゃあ、もう少し長い目で見て、小平のほうも、何かそういう対策等を取ってくれればいいんですけども、監視を続けるということ、よろしいでしょうか。こういうデータがあれば、何か異常があったときに、すぐ早期の発見ができますので、対策にもつながっていくと思いますので、またよろしく願いいたします。

山田副会長 ちょっとよろしいですか。私は専門外なので、全く分からないのですが、生物の調査を丁寧にやっておられる。

小倉会長 そうですね。

山田副会長 これは何かうまく、保全に活かさないかと考えたら、貫井神社の生物種が多様であって、ほかのところと比べると、湧水ですね。こういうのは、どういうふうに考えたらいいのでしょうか。周辺環境というか、水量だけではなくて何か。

小倉会長 そうですね。

山田副会長 随分詳しい調査ですね。

小倉会長 そうですね、前から非常に詳細な調査がたまっているので、せっかくのデータですので、解析できれば面白いなどは思っています。貫井神社は、20

ページの確認種数は、滄浪泉園とトータルとしては同じなんですけれども、21ページの個体数だとか、それから湿重量は、貫井神社のほうが多いんですね、確かに。随分違いがあるもので。むしろ底がたまって、調査をしている、たまっている生息環境が、水質的にはそんなに違いはないですよ、湧水の水質。だからむしろ、そういう形成の生物が生息しやすいような環境にあれば、個体数も多くなって、重量も多くなるという気はしますけどね。水質だけではなくて、そこ、生息する環境といいますか、周辺の状況がどうなっているかということが、一番効いているような気がします。はっきり分かりません、解析してみないと。

土屋委員 調査で、貫井と滄浪泉園ですが、採取している場所はやはり池ですよ、これ。

中澤主任 池です。

土屋委員 一方、本当は川でも対応させて、1つやっておくと面白かったんですよ。だから流量のあるところで、同じように底生動物もやっておくと、例えば、よく言われているような、降水時に、そういうストックヤードと言われるような池とか、こういうところから出てくるかも分からないし、そういう導線のあるところね。

小倉会長 まあ、そうですね。

土屋委員 関連性がね。池、湧水、水の流れ、生き物の流れが分かる。それがちょっと気にはなっていたんですけども、流量観測やる場所で、一緒にやると。たまたま先週の会議でも、今年は多摩川のアユの遡上がすごく多いという話ですね。野川にも随分上ってきたと言われていたので、野川に上ったことなのに、何でだろう、何か異常気象と関係性があるのかとか言っていたんですけど、よく分からないので、多少何か、そういう意味で、えさに関連性のあるものだとすれば、やっておくと面白かったなと。

小倉会長 そうですね。

土屋委員 川でやっておくと何か。もしできれば、次年度に追加して。

小倉会長 本当はこれをもう少しやろうと思えば、池だったら池の底質でしょうかね。状況がどういうところになっているかという、多分その違いが大きく反映していると思うので、底質もあると、より、この違いがはっきりするような気がします。生息環境というか、底質ですね。どこまでできるかというのは、行政調査で、とにかく基本情報が随分上がってきていますので、何か有効に活用したいなという気はしています。解析するには、その一步踏み込んだ調査というものが必要になってくると思うので。まあ、そういう要望があったということ。

基本的には、25年度はこれで、特にほか、よろしいでしょうか。これが調査結果であるということで了解をしたいと思います。26年度も引き続き同じような調査をやっているということですね。

中澤主任
小倉会長

全く調査は同じです。

じゃあ、比較するデータがたまっていますので、また来年度も引き続き議論を続けていきたいと思います。これはよろしいでしょうか。どうもありがとうございました。

それでは3番目のボーリング調査データ。これは送っていただいたやつ、3件ですね。ボーリング調査データ一覧。1、2、3とありますが、これについても事務局のほうから簡単に説明お願いいたします。

中澤主任

ボーリングデータ一覧、こちらの資料のほうをごらんください。1から3番まで、地盤調査3件の資料がございます。

まず1番です。農工大学の体育館工事に伴う地盤調査ということで、住所のほうは小金井市中町2丁目24の16。整地面積が1,135.61平米。建物階数が地上1階。主要用途は大学施設の体育館。基礎工法は直接基礎というところがございます。こちらのほう、東京農工大学体育館工事に伴う地盤調査という資料をごらんいただきたいと思います。

こちらのほう、直接基礎ということで、地盤調査のほう、体育館に関する地盤調査に関して2カ所及び、併せて一番最後のほうでございますが、総合会館の改築に伴って、もう1カ所地盤調査を行ったということで、計3カ所の地盤調査をかけたというところがございます。地盤調査の結果からも、直接基礎で問題はないであろうというところで、直接基礎で関連工事を行うということでございました。資料のご説明は、以上でございます。

小倉会長

ありがとうございました。直接基礎で行うということで、調査はボーリングで3カ所やっていますが、特段、支持基盤、直接基礎なのでかなり表層部分で止まるということで、地下水への影響……。これはもともとあった施設ですよ。

中澤主任

さようでございます。

小倉会長

改築ですから。いかがでしょうか、この点について。

土屋委員

構造物の絵は何ページですか。ないんですね。

小倉会長

平面だけですね。

山田副会長

立面図はないんですか。

中澤主任

はい。

土屋委員

工法が直接基礎なんですけど、何メートルぐらいまで掘るというような。

小倉会長

そうですね、直接基礎になる……。

土屋委員

構造図は添付されてない。

中澤主任 構造図のほうの提出はございませんでしたが、およそ大体1メートル程度と。

土屋委員 1メートルぐらいですか。

小倉会長 1メートルぐらい。1メートルだったら、かなり上のほうですね。

土屋委員 1メートル程度だったら。

小倉会長 そうですね。1メートルぐらいということで、この地質、ボーリング柱状図2点、ごく表層部分ということです。よろしいでしょうか、特に問題はなさそうなので。ありがとうございました。

2番目について、ご説明お願いいたします。

中澤主任 2番でございます。(仮称)小金井市緑町サービス付高齢者向け住宅新築工事でございます。住所のほうは小金井市緑町5丁目13番25号。敷地面積は724.36平米。建物階数が地上4階。主要用途はサービス付高齢者向け住宅。基礎工法のほうは現場造成杭でございます。資料のほう、こちら、土質柱状図のほうで、調査名で、(仮称)小金井市緑町サービス付高齢者向け住宅ということで、5枚綴りのA3版の資料でございます。こちらのほうをごらんいただけますでしょうか。柱状図、こちらのボーリングデータのほうは1ページ目、及び2ページ目です。こちらのほう、柱状図及び調査位置図がございます。3ページ目以降、今回、下のほうは現場造成地、杭工事ということで、杭伏図のご提出をお願いしてございます。杭の本数につきましては、左下、凡例のとおりでございますが、凡例で、P1が9本、P2が6本、P3が1本、P4が5本、P5が5本ということで、合計23本、杭のほうを入れるということでございます。

4ページ目以降でございます。こちらのほうはそれぞれの杭の基礎リストということで、提出のほうでございます。杭の長さにつきましても、先ほどの3ページ目の杭伏図のほうに、長さ10メートル、深さのほうで10メートルほど、杭を打っていく、ということでございます。以上でございます。

小倉会長 ありがとうございます。これは杭の本数が23で、長さがおのおの10メートルということで、最初の柱状図を見ると、10メートルは、砂れき層までかかるんですね。支持基盤が。どうでしょう。

山田副会長 中央線の北ですね。

小倉会長 これは緑町というんだから。

中澤主任 中央線の北側です。

小倉会長 北側ですね。

これはいかがでしょうか。ボーリング柱状図は1本だけですけれども、23本、杭を打つところは、それほど違いはないと考えていいんですね。

山田副会長 現場施工ということは、その場で穴をあけて、セメントを流し込むやつ？

小倉会長　　そういう工法なんですか、現場造成杭というのは。
山田副会長　　そうだと思います。
小倉会長　　打ち込むんじゃなくて。そういう意味なんですか、これは。
何か杭を打ち込むのと違いはあるんですか。強度的に。
山田副会長　　現場施工のほうが、その環境には優しいということのようです。
小倉会長　　ああ、そうなんですか。
土屋委員　　最後のページのところに鋼管コンクリートと書いてある。最後のページで
は。
山田副会長　　ということは、鋼管。
土屋委員　　鋼管コンクリートを。
山田副会長　　コンクリートを後から流し込む。
土屋委員　　鋼管を入れておいて、多分、鋼管が入って。
山田副会長　　コンクリートができたものじゃなくて、あれをするということですね。ま
あ、それはそうなんでしょうね。どこか行っちゃう。
土屋委員　　ええ。現場打ちじゃないと思います。
小倉会長　　現場打ちじゃない？ そんな工法もあるんですね。地下水、砂礫層もかな
り上のほう、上部に。砂礫層の厚さから言うと、かなり、1メートルぐらい
入るとのことですね。
土屋委員　　建物は何階建てになるんですか。
小倉会長　　4階建て。この水位が11月、3月で、ああそうか、観測したときの水位
よりも、ちょっと上までということですね。地下水の。
山田副会長　　11月だから、高いときですね。
小倉会長　　そうですね、比較的高い。これは個人というか、市の施設ではないんです
ね、住宅ではない。
中澤主任　　そうですね。こちらの施設は市の施設ではございません。
小倉会長　　ではなくて、高齢者向け住宅。
ほかに、何かコメントございますか。
土屋委員　　当然、浸透施設は何か含まれる、あるとか。
中澤主任　　こちらのほう、雨水枡のほうを新設で、2カ所というところで、資料の提
出でございます。
土屋委員　　それは屋上を含めて？
中澤主任　　屋上を含めて2カ所です。
小倉会長　　じゃあ、雨水のほうは浸透させると。屋上と、その辺、敷地面積の雨水を
浸透させるということと、杭は現場造成杭ということで、礫層の1メートル
食い込むぐらいということで、地下水のちょっと上ぐらいということで、こ
れを見る限りは、あまり問題はないかなという気がしますが、いかがでしょ

うか。よろしいですか。ありがとうございます。本数は多いけど、そんなに、10メートルほどなので、あまり影響はないだろうということです。

では3番目です。お願いいたします。

中澤主任 3番目。(仮称)武蔵小金井テラス新築工事でございます。住所地のほうは、小金井市前原町5-16-34。敷地面積は718.91平米。建物階数が地上3階。主要用途は長屋住宅。基礎工法は直接基礎ということでございます。資料のほう、(仮称)武蔵小金井テラス新築工事の地盤調査のほうをごらんください。

小倉会長 前原町で、調査位置の案内図がありますね。小金井市の南側です。

中澤主任 資料の真ん中ほどに、土質柱状図ということで、ページがこちら欠落しているのですが、柱状図が2カ所ございます。

小倉会長 これも直接基礎で、やっぱり1メートルぐらいですか。

中澤主任 こちらは1.5メートルということです。

小倉会長 1.5メートル。さっきのは1階で1メートル、今回は1.5メートルぐらいというところで、ローム層の最初のほうまでということ。これも当然、雨水の浸透の設備等はある？

中澤主任 こちらの施設につきましては、規模が恐らくさほど大きくないということもありまして、雨水枡のみということで、資料のほうは出されております。

小倉会長 そうですか。

土屋委員 それは雨水枡をつけなくてもいい。市のほうで何か指導をしているんですか。

林 課長 先ほどお話があったんですけれども、雨水枡というのは、公共施設として新たに設置されるものということで、道路上につくるものなんですね。浸透枡になりますと、何と申しますか、私的につける部分になるので、下水道課まで来た場合には、屋根雨水については、地下に浸透するような、浸透枡、つけていただくような指導をしていますので、99%以上、小金井の場合は、新しいものについてはついています。それは間違いなく、浸透枡は設置されていると思います。

小倉会長 指導要綱か何かで、決まっているんですよね。

林 課長 指導要綱のものもありますし、そうでない場合も、小金井の場合は、お願いなんですけれども、99%はつけていただいている、という形です。

小倉会長 これもそういうお話で、浸透枡はつけるだろうということで。工法は直接基礎で、1.5メートルぐらいの基礎が入るということですが、ローム層のかなり上のほうまでということ、地下水への影響というのは、あまり考えにくいと思いますが、雨水は浸透させるということで。

何かございますでしょうか、これについて。これもよろしいですか。じゃあ、この件については、了解したということで、ありがとうございました。

以上3件のボーリングデータについての、コメントをいただきましたので、議題は「その他」ということで、事務局のほう、何かございますでしょうか。

中澤主任 特段ございません。

小倉会長 ありませんか。ちょうど3時ぐらいなんですけども、何かほか、ございますか。

よろしいでしょうか。じゃあ3番目、次回の日程ということで。

中澤主任 恒例ですと、第2回は11月ごろでございます。

小倉会長 11月ごろ。じゃあまた、日程調整をお願いいたします。

じゃあ、予定の議事はこれで終了ということで、この会議を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。(了)